

## **【報告事項1】 2022（令和四）年度事業報告の件**

### **1) 2022 年度国際会議開催**

2022年12月14日から16日の3日間、一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）と The Society for Information Display（SID）の共同主催で、福岡国際会議場のオンサイトとオンライン（オンデマンド）のどちらでも参加可能な IDW 初のハイブリット運営にて第 29 回 ディスプレイ国際ワークショップ（IDW'22）を開催した。キーノート講演としては、Zhenan Bao スタンフォード大学教授よりスキンドisplayについて、Meta 研究員 Lu Lu 様より次世代 AR/VR システムのための液晶技術について、Kopin 副社長、遠峰秀樹様より DaaS - ディスプレイ アズ・ア・サービス（製品機能のサービス化）技術について御講演頂いた。IDW '22 では、これまで現地開催にて行ってきた Author Interview の代替として Extended Q&A を Session 終了直後に開催した。これにより、より議論が活発化し、発表者と質問者のコミュニケーションが向上した。Poster Session は、Oral Session と並行して行うことにより、聴講者の密集を回避し、且つ部屋使用効率の向上を図った。原則現地発表としたが、渡航制限等による現地参加が困難な発表者およびオンライン参加者の利便性を目的とし、全ての Poster 発表 PDF を Web にて公開し、チャットツールを用いたディスカッションができる機会を提供した。録画されたセッションのビデオ、予稿集などは、会期終了後の 2023 年 1 月 24 日までオンラインプログラムにて公開した。

発表論文数は、キーノート講演を含め全体で 341 件（昨年 308 件）と昨年より 33 件増加し、参加者数も 892 名（昨年 736 名）と昨年より 156 名増加した。

### **2) 記念事業**

“Kobayashi-Uchiike-Mikoshiha Prize” に、九州大学 筒井哲夫名誉教授、島根大学 矢野澄男名誉教授、Kyung Hee 大学 Jin Jang 教授の 3 名の受賞者を選定、および IDW '22 オープニングでの表彰を行った。

### **3) 中長期的検討**

昨年度から引き続き中長期的な IDW の運営の議論を実施した。2022 年度は 5 月 30 日、11 月 15 日に委員会を開催し、主に、下記の通り議論をした。

韓国 IMID、KIDS からの若手研究者交流イベントのコラボ提案を受けて、IDW '22, '23 で具体的にどんな対応をすべきか議論を行った。その結果、コラボによる参加者増への取り組みには賛同が得られたが、実際に進めるには賛否両論あり、もう少し具体的に IMID、KIDS との情報交換、議論した上で再度検討することになった。また、IDW '23 については、参加者増のために、Society5.0 に向けて新たな分野を取り込むという長期的な基本方針のもと、まずは、イメージング技術分野を取り込むセッションを作ること、また、IDW 開催 30 回目に当たることから、なんらかの 30 回記念行事を現地およびそれ以外で行うことで合意した。また、IDW '24 は札幌で開催することに決定した。

#### 4) 会員関連

##### i) 賛助会員

2022年度の賛助会員数:8社(2023年4月19日現在)

過去3年間の賛助会員数。

- ・ 2019年度の賛助会員数:8社
- ・ 2020年度の賛助会員数:9社
- ・ 2021年度の賛助会員数:9社

##### ii) 社員

2022年度の社員数:59名(2023年4月19日現在)

2021年度からの推移は次の通り。

- ・ 2021年度社員数:56名
- ・ 2022年度の増減:入社:3名、退社:0名

##### iii) 準社員

2022年度の準社員数:5名(2023年4月19日現在)

2021年度からの推移は次の通り。

- ・ 2021年度準社員数:5名
- ・ 2022年度の増減 増:0名、減:0名

#### 5) 財務関連

IDW '22の決算が2023年3月31日までに行われなかったため、国際会議事業の収支報告は2023年度以降になる。

以上